

第62回 朝日新聞社杯



記者の

イチ押し!

競輪祭 編



音無 記者



鈴木庸之



吉田拓矢

吉田拓矢は10月寛仁親王牌では4日間主権を握って④⑦②①着。続く11月防府記念でもシリーズ2勝を挙げるなど好調だ。「(防府は)準決勝が不完全燃焼だったけど、1着で締められた。セッティングもだいぶ出てきたし、問題なく競輪祭を迎えられる」

小倉はF1戦で過去2度の完全優勝がある相性のいいバンク。競輪祭では昨年、連勝でダイヤモンドレースに進出し、決勝戦にも勝ち上がっている。今の調子なら昨年の再現が期待できそうだ。

鈴木庸之が1年9カ月ぶりにビッグレースに復帰する。腰椎ヘルニアで昨年2月小倉を最後に10カ月近く実戦から離れたが、復帰後はコロナによる休止期間で脚を作り、8月函館で優勝、6月青森で準VとG3でも活躍している。G1のスピード感も9車立てのレースも久々になるが、まずはこの舞台に帰ってきたことが鈴木にとっては大きな一歩。たとえ敗者戦でも連年からの来季以降につなげたい。



竹内 記者



東口善朋



坂井洋

8月のオールスターでG1初出場を果たした坂井洋は、寛仁親王牌でも2勝をマークし2度のG1で3勝を挙げている。まだデビュー1年ちよつとという経験の浅さをポテンシャルでカバーしながら、ビッグレース特有の流れもつかんでもきている。3度目となる大舞台は、スピード持続力が高い坂井に向きそうな小倉のドームバンク。3戦2勝とバンクとの相性も悪くない。過去の2回以上に期待しても損はないだろう。115期の坂井が、関東勢の糸口となる。

東口善朋は、寛仁親王牌の準決、ファイナルと2度、脇本雄太の番手でラインの連係を崩すことなくゴールしている。「自分の年齢に関係なくもっと上積みをして、このあと(脇本の)後ろを強く主張して回れるように」。寛仁親王牌でこう振り返っていた東口にとっては、今回でその連係実績を確かなものにしたい。近畿の追い込みとして立場の確立。20年のG1を締めくくる競輪祭が、今後を左右する勝負どころだ。東口にはモノにしてほしい。



岡崎 記者



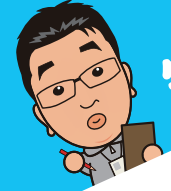
宿口陽一



原田研太郎

四日市記念は惜しくも準決勝で敗れた原田研太郎だが、「オールスターからシューズを変えていきなり決勝が上がったから、そのシューズをずっと使っていたけど、小松島記念で勝った時のシューズに戻したらスピードが出たし、もう一回煮詰めても良いのかなって思いました」と、最終日には好感を得ていた。前検日までの中8日でマッチさせることができれば、小倉は白星が多いバンクでもあるので、競輪祭初優出に期待できそう。

宿口陽一は、関東の若手機動型がどんどん出てきていることで、グレードレースでは番手戦が増えている。それでも10月松戸の決勝を先行して3着や、続く四日市記念の決勝でも主導権を握るなど、自力でもまだまだ戦えることを証明している。「松戸では結構、内容のあるレースができました。松戸から使っている新車も良い感じ。番手の時は余裕があります」。今回の舞台は無風の400バンク。展開が向けば、しっかりチャンスモノにする準備はできている。



笠原 記者



高橋晋也



河村雅章

S級1班に振り返り咲いた今期の河村雅章は強烈なまくり、追い込みを主武器に各地で奮闘している。4カ月ぶりのG3参戦となった10月京王閣記念は惜しくも決勝を逃したが、2連対と地元で存在感を示した。ビッグレース出場は18年3月の松山ウィナーズカップ以来、2年8カ月ぶり。今大会は初出場だが、ドームの高速バンクは脚質に合っている。最近では人の後ろを回る機会も増えているので、番手、3番手の競走でも心配はない。きっちり仕上げて車券に貢献する。

高橋晋也はビッグ初挑戦となった3月福井のウィナーズカップで決勝3着と大活躍したが、夏場にスランプに陥った。「ウィナーズの後に調子を落として上位の壁も感じたし、勉強の1年ですね。レースの運び方や体の使い方、調整の仕方など、いろいろ経験しています」。試行錯誤を重ね、9月青森記念では今期初優出。ここに来て、ようやく本来のリズムを取り戻している。競輪祭は初出場でも小倉も今回が初めて。積極策でファンにアピールする。

GIRL'S KEIRIN ガールズグランプリ2020 トライアルレース

11/18~20

アメジスト(トライアルB)

メンバーがそろって波乱の要素もたっぷり。グランプリ出場は確定的な高木真備、梅川風子がV戦線を取り戻すが、昨年と同様にここで勝ってグランプリ出場を目指す小林優香も黙っていない。さらにレース巧者の石井寛子、鈴木美教、細田愛未に、小林、梅川とともにナショナルチームに所属する佐藤水菜、太田りゆ、鈴木奈央ら本当に一騎当千の選手ばかり。それでも、ダッシュ、スピードで双壁を成す高木と梅川、中でもレーススタイルが完成して勢い断トツの高木が勝利を手にする可能性が高いが、小林の巻き返しも見込めそう。競輪に向けた練習に、セッティングも見直して手応えをつかんできている。石井はやや好不調の波があるが、デビューの年から続けているグランプリ出場は当確とさすがに総合力が高い。グランプリへ気は抜けない鈴木、勝つかなくなった佐藤の一発はあるか。



メンバーがそろって波乱の要素もたっぷり。グランプリ出場は確定的な高木真備、梅川風子がV戦線を取り戻すが、昨年と同様にここで勝ってグランプリ出場を目指す小林優香も黙っていない。さらにレース巧者の石井寛子、鈴木美教、細田愛未に、小林、梅川とともにナショナルチームに所属する佐藤水菜、太田りゆ、鈴木奈央ら本当に一騎当千の選手ばかり。それでも、ダッシュ、スピードで双壁を成す高木と梅川、中でもレーススタイルが完成して勢い断トツの高木が勝利を手にする可能性が高いが、小林の巻き返しも見込めそう。競輪に向けた練習に、セッティングも見直して手応えをつかんできている。石井はやや好不調の波があるが、デビューの年から続けているグランプリ出場は当確とさすがに総合力が高い。グランプリへ気は抜けない鈴木、勝つかなくなった佐藤の一発はあるか。

トパーズ(トライアルA)

ガールズのレベルアップもあって今年のグランプリ出場を懸けた争いは例年以上に熾烈。とはいえ、出場がすでに確定的な児玉碧衣、石井貴子が抜けていて、特に昨年準Vの児玉は女王の威信にかけても勝ちにくる。石井の大舞台での勝負強さも言わずもなで、児玉の動きを見ながら柔軟に組み立てて逆転を目指す。今年一番躍進が目立った坂口楓華が大舞台で爪痕を残せるかも見ものだ。6月からの8連覇は圧巻だったし、その後も順調に賞金を重ねて初のグランプリ出場も狙える位置に付けている。自分からレースを動かしていい好位を確保できれば面白い。ホーム平塚でのグランプリ出場は逃せない尾崎睦にとっては勝負駆け。小林莉子、奥井迪ら実績上位の選手もそろって健在で、それぞれ持ち味を生かして勝利を目指す。新星・尾方真生やフレッシュクイーンを制した久米詩にも注目したい。



ガールズのレベルアップもあって今年のグランプリ出場を懸けた争いは例年以上に熾烈。とはいえ、出場がすでに確定的な児玉碧衣、石井貴子が抜けていて、特に昨年準Vの児玉は女王の威信にかけても勝ちにくる。石井の大舞台での勝負強さも言わずもなで、児玉の動きを見ながら柔軟に組み立てて逆転を目指す。今年一番躍進が目立った坂口楓華が大舞台で爪痕を残せるかも見ものだ。6月からの8連覇は圧巻だったし、その後も順調に賞金を重ねて初のグランプリ出場も狙える位置に付けている。自分からレースを動かしていい好位を確保できれば面白い。ホーム平塚でのグランプリ出場は逃せない尾崎睦にとっては勝負駆け。小林莉子、奥井迪ら実績上位の選手もそろって健在で、それぞれ持ち味を生かして勝利を目指す。新星・尾方真生やフレッシュクイーンを制した久米詩にも注目したい。